

## 協会の活用をもっと広く

会長 池田悦治

(大日本塗料KK社長)

何気なく出会って、とりとめのない話をしているうちに、大きな話題をつかんでいることがある。その反面極めて重要だと思うテーマを決めて会談しているうちに、何となくつまらないと思うことがある。

われわれの社会生活は、所註何人かのつながりで行なわれているから、毎日毎日が誰かとの会話であり、会談である。そしてその会話なり会談なりが、そんなに几帳面に仕組まれて行なわれていなくても、結構用を足している。

人生は非常に意義深い、重厚な人間活動によって盛られてあるようでもあるし、極めて軽快で、楽しい茶飯の事で盛り上げられているようでもある。

私は、われわれが、どちらの面に立とうとも同じ終局をもつことになるように思っている。

世の中を窮屈にしないで、より大らかな心をもって暮らしていきたい願望からである。

生産技術振興協会という、何だかしかつめらしいルールの中で活動しているところで、取扱われるテーマにしても、交わされる会話にしても、或る程度洗練されてなければならないように見えるけれども、それでは大方の社会に役立ちようがない。どちらかといえば、むしろこんなつまらぬことをと思はれるような課題を持ち込んで、これを各面から眺めて見て、それぞれの意義づけをするところである。世にいわれている井戸端会議に似かよっ

ているのであるが、井戸端会議とちがって何等かの結論が得られるところ位に考えられたらいいと思う。

勿論もち込まれる課題が、専門的に分類意義づけられた後は、それぞれ技術的に解明される筈である。

生産社会には技術の他にもいろいろの問題が起こるのであろうが、技術の革新テンポが速い今日では、さしづめ技術に関する課題が多いことであろう。われわれは、最も軽い気持ちで、自分が携わっている技術の小さな疑問を提起すればいい。大阪大学の組織である生産技術研究(が)問題の整理に当たってくれ、整理された問題は必要によって専門の教室が解明してくれることになるう。

こんなふんい気の協会にしなければほんとうの協会活動は覚束かない。

最も素朴な考えの中にこそ最も高邁な理論や技術があると思う。質実な日常行動からヒントされた思いつき、模倣でないほんものの自分の考えに独創性があるのではなかろうか。こうした考えを軽く持ち寄って、気軽るに話し合ううちに偉大な発見の端緒がつかめるであろうし、口頃苦心している技術を解明していくことにもなるう。

それこそその専門を代表されている学究の前に、極く当たり前そうで、それなりに解決されないため苦しんでいるような技術課題を、平易で恥じらいなく持ち寄れる広場としての協会を、もっともつと活用して貰いたい。